

平成 28 年 9 月 7 日

市民クラブ 井上重久

「スコットランド公式訪問」報告

<訪問団メンバーと目的>

長崎市・長崎市議会・長崎日英協会は、田上市長を団長として長崎市公式訪問団 13 名（理事者・職員 4 名、議員 8 名、添乗員）、長崎日英協会 6 名、その他の訪問団 6 名（エディンバラ市訪問）の合計 31 名が参加して 8 月 20 日（土）から 8 月 26 日（金）までの 6 泊 7 日の間、スコットランドのアバディーン市及びエディンバラ市を訪問した。公式訪問の目的は、市民友好都市であるアバディーン市との交流促進、2019 年ワールドカップ（日本開催）におけるスコットランドラグビー協会事前キャンプの調印式、ジュニアラグビー長崎選抜（U15）対スコットランドとの交流試合観戦、グラバーハウス視察、ラグビーアカデミー視察、エディンバラ城視察など多岐にわたった。



長崎空港にて結団式



アバディーン市のまちなか

<8月20日・21日移動日の行動>

出発日（8月20日）は、14時30分に長崎市役所市議会駐車場に集合し、市議会バスにて長崎空港に向かい、長崎空港では公式訪問団の結団式を行い羽田空港に向かった。ホテルは、国際線ロビーと連結しているロイヤルパークホテル・ザ・羽田、国際線乗り継ぎのためか？シンプルな部屋であったが、全室禁煙のためロビーの喫煙ルームのみでタバコを吸わざるをえなかった。8月21日（日）7時起床、朝食のバイキングは野菜・果物・カレーを食し、9時20分ホテルを出発、国際線で出国の手続きを済ませた後、搭乗口ロビーにて約1時間待機し11時20分発BA1316便にてロンドンのヒースロー空港に飛び立った。

羽田空港からヒースロー空港まで約 13 時間の空の旅。さらに、ヒースロー空港で乗り継ぎアバディーン空港へ、機内禁煙のためどうなるか不安になっていたが、邦画を観ながら時間を潰し、睡眠をとりながら何とか我慢出来た。アバディーン市のヒルトン・ガーデン・イン・アバディーン・シティ・センターのホテルには、日本時間 8 月 22 日午前 5 時頃に到着(現地時間 8 月 21 日 21 時)、日本との時差は 8 時間、現地時間 21 時過ぎから夕食となった。夕食会では、スープ、メインデッシュのサーモン、パン、デザートで、スコットランドの食事に戸惑ったが、冷えた生ビールを飲みほしシャワーを浴び、24 時過ぎに就寝した。しかし、時差の関係もあってか？午前 2 時過ぎに目が覚め、その後、約 1 時間の間隔で目が覚めた。



アバディーン空港 (車窓から)



アバディーン市のホテル

< 8 月 22 日、アバディーン市午前中の行動 >

8 月 22 日 (現地時間) の行動は、先ず、アバディーン市長を表敬訪問 (9 時 ~ 9 時 45 分)。アバディーン市の概要は、日本の近代化に多大な貢献をしたトーマス・グラバーが幼少期を過ごしたスコットランド北東部の港町で、人口は約 22.8 万人、イギリスで 4 番目に古いアバディーン大学を有するなど、古い歴史を持ち街中には重厚な石造りの建物が立ち並ぶ「花崗岩の街」と呼ばれている。2010 年 (平成 22 年) 7 月 12 日に、市民や民間交流団体が中心となって交流を行う事を確認し、市民友好都市として提携している。アバディーン市庁舎訪問途中、スコットランドで国民的英雄であるロバート 1 世 (1306 年—1329 年) の記念像を観ながら、イングランド王国との独立戦争でスコットランドを率いたと、現地ガイドから説明を受けた。

アバディーン市庁舎 (セント・ニコラス・ルーム) では、公式訪問団 31 名及び日本からアバディーン市に留学している大学生 22 名が出席して、アバディーン市ジョージ・アダム市長を表敬訪問。レセプションでは、ジョージ・アダム市長より「歴史的な繋がりがあり、今後とも産業の発展に繋げる必要がある。

友好と交流を通じて絆が深まることを期待する」、田上市長より「6年間の交流の中で様々な事があった。トーマス・グラバーが日本の近代化を推進し世界遺産に登録され、このような交流が始まった。過去を懐かしむのではなく、未来に繋げていきたい」との挨拶があった。その後、両市長・両市議会議員から記念品が贈呈され、友好と交流を深め合った。私たちもジョージ・アダム市長と記念写真を撮らせてもらった。



国民的英雄のロバート1世の記念像



アバディーン市長表敬訪問

次の視察地は、キティーブルスターの水素ステーション施設（10時～10時45分）。アバディーン市は、1970年代から北海油田の石油・ガス産業で発展を遂げたが、将来を見据え再生可能エネルギーの実用化に向けた取り組みが進められている。その取り組みのひとつが、水素プロジェクトで10台の水素バスを所有し、市内2社のバス運行会社に貸与して試乗運転がされている。水素バスの1台当たりの費用は3年前で100万ユーロ（約1億4,500万円）、現在は80万ユーロ（約1億1,600万円）で、通常バス20万ユーロ（約3,000万円）より割高となっている。プロジェクトの運営は、EU・スコットランド・アバディーン市含め16団体が参画している。日本ではハイブリッド車・電気自動車が主流になりつつあるが……。午前中は水素バスに試乗して視察。



水素ステーション施設



グラバーハウスにて

次に訪れたのは、**グラバーハウス（11時～11時30分）**。グラバーの両親などが1864年から20年余りにわたり生活した家で、グラバー自身は日本に拠点を築いていたため生活はしなかったが、日本からの留学生を連れて何度か訪れているといわれている。庭園には、「明治維新に際し、日本の近代産業に偉大な貢献をした、グラバー氏への感謝を込めて、グラビアン・ジャパン財団に本グラバー邸を寄贈す」 1997年8月22日 三菱重工業株式会社と記した記念碑があった。三菱重工が地元の持ち主から4500万円で敷地と建物を購入し、グラバーハウスとして一般公開をしていたが、経営悪化のため閉館及び売却の知らせが三菱に届き、三菱は粘り強く保存を求めた結果、2015年3月にグラバーハウスが記念館として再開館した。三菱重工社の地域貢献活動をアバディーン市で垣間見た。また、地元メディア数社が公式訪問団に合わせ取材に訪れていた。



グラバーハウスメディアの取材



グラバーハウスを寄贈す「記念碑」

8月22日（現地時間）午前中、最後の視察地は、アバディーン市の**海洋博物館を訪問（11時45分～12時15分）**。イギリスはEU加盟国の中で、最も原油を生産・輸出している。この博物館は、イギリスが採掘を行っている北海油田設備の模型や船、採掘の仕組みを解説したパネル、その他にトーマス・グラバーが日本に送った船の模型や図面、船医の医療器具、漁業に関する道具等が展示されている。館内の一角にトーマス・グラバーのパネルも展示されているが、意外と地元市民には認知されておらず、現在、アピールをしているとの説明があった。当時、トーマス・グラバーは、軍艦「JHO SHO MARU」をアバディーンの造船所に発注、1870年（明治3年）3月に長崎に回航され熊本藩が購入、アバディーン市から長崎までの航海は約3ヶ月間を要したとのこと。

< 8月22日、アバディーン市午後の行動 >

8月22日（現地時間）午後からの行動は、アバディーン市所有のビーチボールルームにおいてアバディーン市長・市議会代表者との昼食会（12時30分～13時45分）を終えて、グレンギリー蒸留所を視察（14時30分～16時）。グレンギリー蒸留所は、1797年創業のスコットランドで最も古く、一番小さな蒸留所で200年の歴史がある。蒸留所一帯は、古くからの大麦の主産地で、古くからウイスキーづくりが行われてきた。蒸留所名のグレンギリーとは「谷間の荒れた土地」という意味で、ウイスキーづくりは大麦・水・イーストが命で、発酵温度は63.5度で管理し、現在はサントリーが親会社になっているとの説明があった。ウイスキーは10年以上樽に詰めて寝かせ、温度・湿度管理を十分行って商品となって出荷されている。蒸留所では、造りたてのウイスキーと12年ものを試飲し、ウイスキーの香りと味を堪能した。



グレンギリー蒸留所



グレンギリー蒸留所周辺の大麦畑

次に、アバディーン大学のラグビーアカデミーを視察（17時～18時）。アバディーン大学ヒルヘッドキャンパスに2014年10月に開設されたアカデミーで、14歳以上の男女で才能のあるラグビープレイヤーの指導を目的としている。このアカデミーには、中・高・大学より40名が参加し15名のプロ候補者がおり、専門のコーチ・専属トレーナーの指導により4ランクに分けて、技術面・体力面などを磨いている。また、施設内には、筋力トレーニング室や怪我をした選手の治療室、個々の選手の特徴を分析する部屋も完備されていた。

8月22日（現地時間）公式訪問団の最終のスケジュールは、アバディーン市長主催の夕食会（19時30分～22時）。夕食会は、アバディーン市庁舎のタウン・アンド・カウンティホールにおいて約100名を超える関係者が集い開かれた。会場では、ジョージ・アダム市長より「私たちには分かち合う歴史がある。産業と通商など新しい可能性を見出し現在と未来に繋げる」との歓迎の言葉が述べられ、田上市長より「6年前に初めて訪問してから大きな出来事があった。

グラバーが関係した施設が世界文化遺産に登録された。2019年日本でのワールドカップでの長崎キャンプ含め関係は未来に続くもの」と挨拶があった。その後、アバディーン市のおもてなしでワインを飲みながら食事を頂いた。ただ夕食会が2時間30分と、結婚式並みの時間となったのには戸惑いを感じた。英会話が理解できれば、時のたつのは早いものだが……。それぞれ視察の時間は、若干の差はあるが多忙な一日となった。



アバディーン市長主催夕食会



ラグビーアカデミー

< 8月23日、エディンバラ市の行動 >

8月23日（現地時間）の行動は、8時30分アバディーン市のホテルから専用車でエディンバラ市に向かって移動、粋なはからいなのか？要望があったのか？よく分からないが・・・トイレタイムの場所は、全英オープンで有名な世界最古のゴルフ場「セント・アンドリュースオールドコース」ゴルフの聖地とも呼ばれている場所であった。トイレは有料であったが素晴らしい光景を拝見させてもらった。約4時間の道中を経て、エディンバラ市のホテル（The Glasshouse）に到着。同ホテルの入口には、赤ジュウタンが敷かれスコットランドラグビー協会（Scottish Rugby Union）の役員が出迎えてくれた。一旦荷物をホテルに預け、スコットランドラグビー協会（SRU）の歓迎レセプション（13時～14時15分）に出席し昼食をとった。



セント・アンドリュースオールドコース



歓迎レセプション昼食会

また、道中においてスコットランド・エディンバラ近郊のフォース湾に架かる「鉄道橋」を拝見、全長 2530m（最大支柱間 521m）のカンチレバートラス橋で、1890年に完成したとガイドより説明があった。このフォース鉄道橋は、2015年に明治日本の産業革命遺産と同様に、世界文化遺産に登録されている。126年前の工事管理・技術力などに頭が下がるばかりである。エディンバラ市は、イギリス連合国の一員になるまでのスコットランドの首都。エディンバラとは、「斜面に立つ城砦」という意味で、スコットランドを象徴するエディンバラ城（軍事拠点）が立っている。城のふもとには、石畳の道や石造りの建物など中世エディンバラそのままの街並みが残っており、オールドタウン（旧市街地）は、これまた世界文化遺産に登録されている。ガイドによれば、坂の街・お祭りの街と呼んでいた。



世界文化遺産のフェース橋



世界文化遺産のオールドタウン

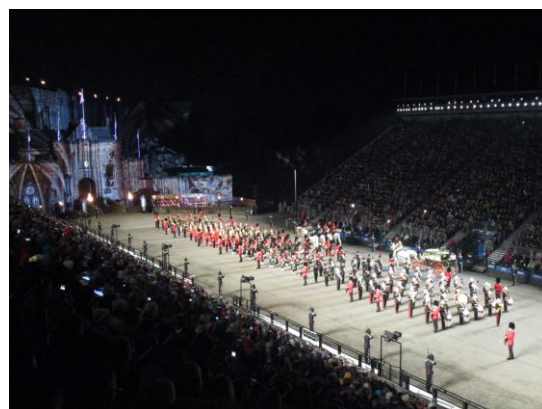
昼食後は、ジョージワトソンカレッジラグビースタジアムにおいて、日本対スコットランドのU15交流試合を観戦（15時～16時30分）。体力の差は歴然としているなかで、長崎選抜はチームワークで先制トライを決め序盤は善戦していたが、中盤から後半にかけてスコットランド選抜からトライを決められ惜敗した。しかしながら、この経験は選手にとって忘れるものではなく、これを糧として大きく成長していくものと思っている。この交流試合に松永総領事も観戦、17時から在エディンバラ日本国総領事館において総領事主催のレセプション（夕食会）に出席した。総領事館では、長崎からの訪問団のために特別に寿司・焼きそばなど日本料理も準備されており、異国の地で食する日本料理に改めて感謝・感激した。

8月23日（現地時間）の最終スケジュールは、SRU招待の「エディンバラ・ミリタリー・タトゥー」の視察（21時～11時）となった。ミリタリー・タトゥーは、1950年より65年もの間休演することなくエディンバラ城で毎年開催されているお祭り。スコットランド伝統のキルトを着た軍楽隊によるバグパイプ

パフォーマンスの他、他国の軍楽隊も参加している。子ども達によるバイクのアクロバットショー、エディンバラ城をバックにした光の演出、華麗なダンス、打ち上げ花火など、光と音楽の壮大な演出に地元市民のみならず、毎年 20 万人以上の観光客が世界各国から集まる人気イベントである。急傾斜の仮設スタンドは、満員の状態で身動きがとりにくく、パフォーマンスが終わるたびに、大きな拍手と声援が送られていた。



日本対スコットランドU15 交流試合



エディンバラ・ミリタリー・タトゥー

< 8月24日、エディンバラ市の行動 >

8月24日（現地時間）の行動は、8時45分エディンバラ市のホテルからマレーフィールド（スコットランドラグビー協会所有）に向かって出発、9時30分からマレーフィールドにてティータイム、10時からマレーフィールドピッチサイドにて調印式、11時からスタジアム視察及びエディンバラチームシーズン前トレーニングを見学、12時30分から同会場にて昼食となった。スコットランドラグビー協会（Scottish Rugby Union）は、1871年にイングランドと最古の国際試合を行い、ラグビーユニオン史上初の国際試合に勝利した。ホームスタジアムは、エディンバラのマレーフィールドを有し、開場は1925年（1995年改修）、グラウンドはハイブリッド芝、ピッチサイズは134m×70m、建設費5000万ポンド、収容能力67,800人、SRUが所有している。



ピッチサイドにて調印式



スタジアム視察（県選抜チーム）

SRU と長崎市の合意内容は、スコットランドナショナルチームの 2019 年ラグビーワールドカップ開幕前の 10 日間の「事前キャンプ」を長崎市が主催するもの。①ワールドカップキャンペーンに向けて準備活動のため長崎を訪問する。②双方の合意のもと要請に応じて、長崎のラグビー振興のための活動やメディア取材並びに関係促進のための市民イベントに参加する。③SRU は、長崎市との協力促進および相互支援促進のため努力する。④長崎市は代表チームに適したホテル宿泊施設、食事等、移動費（手段、車両等、国内旅費等の手配、費用を負担するなどとなっている。昼食後、15 時からエディンバラ城を視察、19 時からスコットランドラグビー協会（SRU）主催レセプションとタイトなスケジュールに追われた。



ピッチサイドにて調印式



シーズン前トレーニング

< 8月25日・26日、エディンバラ・ロンドン・羽田帰国 >

8月25日（現地時間）の行動は、11時エディンバラ市のホテルからエディンバラ空港に向かって出発、搭乗手続きを済ませ13時45分エディンバラ空港BA1445便にてロンドンヒースロー空港に向かう。ヒースロー空港にて約4時間待機し、19時15分発（日本時間8月26日午前3時15分）JL044便にて羽田に飛び立つ。羽田には日本時間8月26日15時前に到着、約2時間30分待機し羽田発JL613便にて長崎空港へ、到着後ロビーにて解団式が行われた。長崎市役所には21時頃到着、軽めの夕食を済ませ自宅へ帰ったのは22時30分過ぎ、自宅には孫（虎太郎）が遊びに来ていた。孫が帰ってからシャワーを浴びて、寝床についたのが27日午前1時過ぎ、途中目がさめて再び眠りにつき翌日11時まで浅い眠りについた。

<所 感>

組合役員時代はアメリカ・中国・東南アジア、議員になって中国・台湾と訪問しているが、ヨーロッパ訪問は生まれて初めて、当然スコットランドも初めてである。訪問の不安は、長時間にわたる空の旅、機内禁煙のためどうなるか不安であったが、邦画を観ながら時間を潰し、睡眠をとりながら何とか我慢出来た。各訪問先では、アバディーン市長・日本領事館総領事・スコットランドラグビー協会より絶大なる「おもてなし」を受けた。レセプション・食事会では、懇談やワインを飲みながら食事を頂いたが、食事時間が約1時間30分から約2時間30分となったことには戸惑いを感じた。英会話が理解できれば、時のたつのは早いものだが・・・本場スコッチウイスキーも飲んでみたかった。



日本領事館総領事主催夕食会



グレンギリー蒸留所保管所

ジュニアラグビー長崎選抜（U15）対スコットランドとの交流試合では、長崎選抜はチームワークで先制トライを決め序盤は善戦していたが、中盤から後半にかけてスコットランド選抜からトライを決められ惜敗した。しかしながら、この経験は選手にとって忘れるものではなく、これを糧として大きく成長していくものと思っている。スコットランドの強さの秘密は、ラグビーアカデミーでの才能のあるラグビープレイヤーの指導をしていること。専門のコーチ・専属トレーナーの指導により、4ランクに分けて技術面・体力面などを磨いていること。施設には筋力トレーニング室や、怪我をした選手の治療室、個々の選手の特徴を分析する部屋も完備されていることなどがあげられる。日本・長崎にもこのようなシステム・環境整備などが望まれる。

各視察地で印象に残るのが、SRU招待の「エディンバラ・ミリタリー・タトゥー」の視察、エディンバラ城で毎年開催されているお祭りで、スコットランド伝統のキルトを着た軍楽隊によるバグパイプパフォーマンス、子ども達によるバイクのアクロバットショー、エディンバラ城をバックにした光の演出、華麗なダンス、打ち上げ花火など、光と音楽の壮大な演出に感動した。



日本対スコットランドU15 交流試合



エディンバラ・ミリタリー・タトゥー

また、エディンバラ市オールドタウン（旧市街地）に、石畳の道や石造りの建物など中世エディンバラそのままの街並みが残る世界遺産、エディンバラ近郊のフォース湾に架かる「鉄道橋」の世界遺産を観ることが出来、スケールの大きさ、長い歴史と伝統、世界の中での世界文化遺産登録の凄さを感じた。タイトなスケジュールの中ではあったが、現地を訪れて自分の目で確認する、耳で直に聞くこと、そして体験・経験することが、今後の議会活動・ライフプランにも繋がるものと思う。



エディンバラ城



長崎空港にて解団式